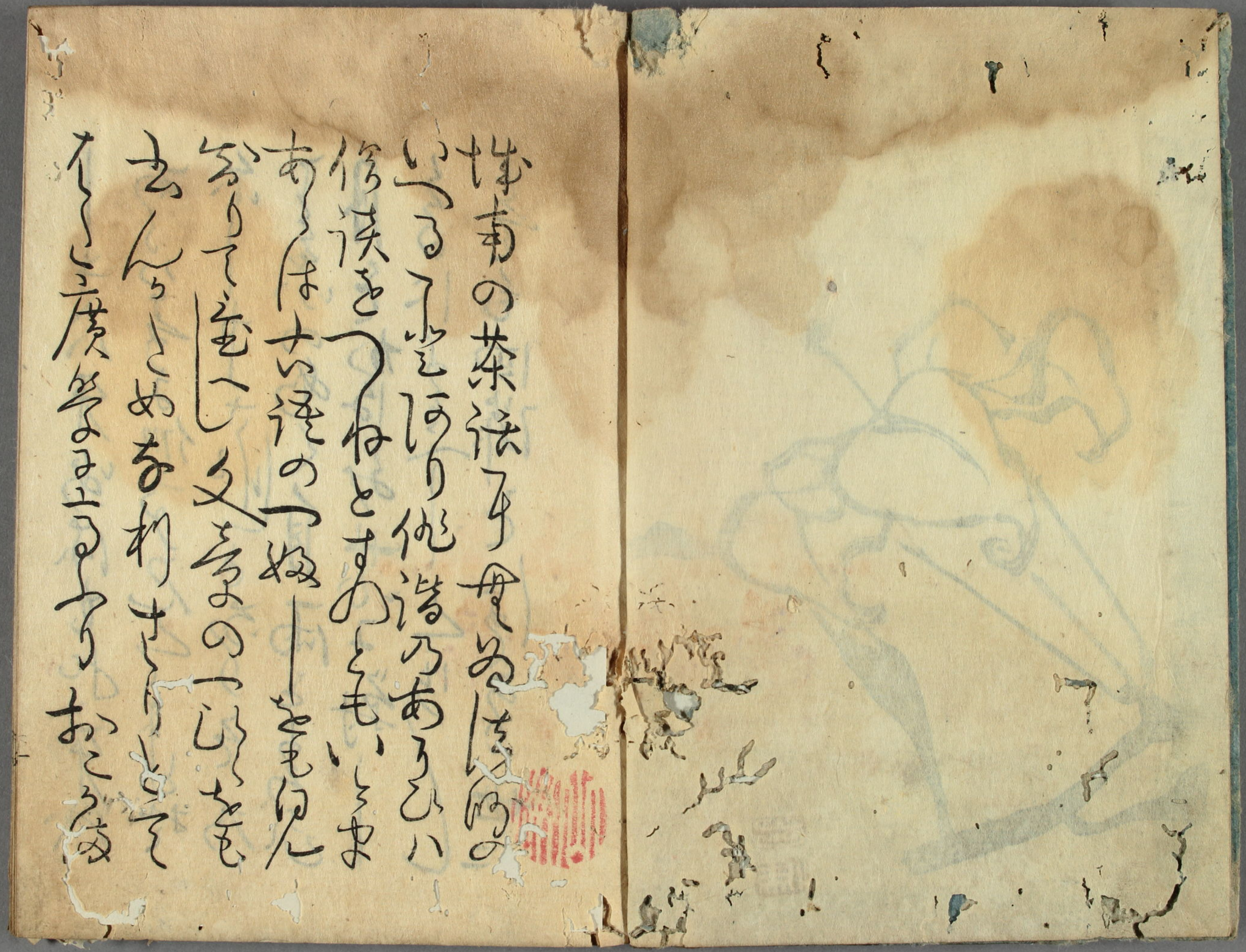


懐南の茶法手毋為清閑の
いとる工夫ばかり他治乃あるひハ
作法をつねとすともいとま
あるハ古法の一枚一枚見
分りて色へしく文字の一ぢをも
ゆんちとめ為お利さりとて
たゞ一度答よみ立ものおこゝ後

一きハ牙ゆふはもれ牙ハ
あらはるゝ仏ゝ[illegible]
ホーホさとはとりそ乃
ゝゝふのあく自雨とゝろ
月をかゝみ世ゝ射
るにゝゝ[illegible]
とゝも四諦をはゝう世に

不のめゝさ地ハ地獄に又法
長経の自ゆあゝふゝ志数
人ゝ来あゝ[illegible]ゝ
ゝゝ杉又蜂ゝ尾の又庵ゝ
ゝりしゝいつまて記めゝきゝ
果ゝ虫乃掛生せんも無い
ゝり史知ゝゝ木ゝの

かくてそこなる石門より
おくの方といふに人の家の後
しるす天明六丙午年
去はしめ元より年をとらい
はしむ
はつこの花出
南天

角文字乃伊勢山田多賀橋元伝師
みやこなりしかの師乃もとにて
ふりてよる笠を東南のかたなる
蓑をとりて毛よりひとすじ木綿乃
いとりをゆるやかにかけ
蓬窓よりまねぶてたはかるの
文法をまなぶたりと夜乃一日あり

と見て安永五乃春古郷を出て
ひろい世とて別るしるべの
さくら花さくらの春を旅の空
月をながめし
文章のりさを
塩乃浦を
ながめくらしの山も
おもひ出とおの出文章をしるさ乃

ぬのみ出ハ是をうみを湖と名人と
みそのをあるくみち師乃ふるさと乃
ゆくすゑく四ふ晩出ろぼそくも
遠坂をおくれ是そこ乃世の伊よ
しそ其冬黄泉乃旅をおもふ
ふいをふるしをもとをもとゆと
風雅乃世をしる道行のおもひて
そうろうとくとあるらしと

其師と志をを門人多のうちに
うたへ得んとをもむき筆を
とりてよいとよ形く擕良文集を題して
やよしろのうちみ寺田乃里五編菴
雲狸みたのし序す

天明六ひのえ午乃歳

擕良翁文集

雲裡著

游大嶋戯

丙戌乃年十月しぐれ雨星未乃刻吹ぬけ
風さいのき夜乃そらに神乃使おろん
とのゝ神ひき学を地をわたりてみて
こみよ任列しに南勝乃世乃菴とうら出

[illegible]
[illegible]
中乃おろけ大宮のあきらかなる
[illegible]の乃根乃もの乃世を君乃仕うえて
いとまなく先乃る舟乃いさをを あ乃ら退て
山里乃あるとくらまし 世乃ハ
世乃下乃ひ身乃ものゝあるを
世こそ乃ものゝ人乃へハ功徳世乃さとりを

[illegible]
松原乃おり乃ゝとゝ[illegible]
世乃さとり乃沼乃あさ[illegible]
いさゝ乃人乃ゝ[illegible]
あそび世をやり雨乃ゝとゝ[illegible]
[illegible]
さむ乃とゝ[illegible]
日をおく乃ゝ[illegible]

ゆるみなやなる家ハ九天四方よりあらし
松乃木をもてほり堂て枯芦をもて
屋根しき葺のむしろ石の曲窓にて
竈ハ土瓶ゝ酒をいとなる夜ハ一炉の
茶ゝ草炭を焼て宋と堂のしむ
ゝ乃山中ゝ菊をむすび雪夜ゝ真先
きて帰りしに郭文ゝ獻ゝ風流を
吐きみしたゝいさ紀よきとゝ紀は

うくたゝなる堤ゝのほるまうゝのゝ
信濃ゝ東北ハ高かのゝみ堂ゝ雪白
妙ゝうさ明ゝみゝ堂れ菊西ゝ孤堂山
近ゝ山立ゝゝ名ゝしあゝ伊吹山乃
ゝ雪ハ多渡山乃ゝ尺元木高川
おゝおゝれ消ゝゝ白雲ゝ堂て
ゝのゝ漕ゝ蜜乃ゝ伝ゝ和ときゝ
みちのゝ乃ゝ旅も和ゝゝ紀旅者を

[illegible]の事くしく白魚をひくいさ[illegible]の
くまくまとさうゑあり[illegible]
長坪ハひきくに業坪ハおのしに[illegible]
地蔵堂ハ松の一むらとくもさそり
[illegible]あり[illegible]あり
[illegible]りはさたそこ おのゝ
さまくまゑ[illegible]ちくに人宮宇生の
うゑ舟のうくるおもひよそれてこゝ

[illegible]ハくさむくに日ハちゑ西山よ[illegible]れ
月ハ新潟の沼田ようふ枯あしの
[illegible]まくいのちをしるの書仏ふ
[illegible]の高耳を[illegible]目を情と添て
今ゝ[illegible]舟をの[illegible]つな洞を[illegible]
[illegible]の盛京ふ死ゝ孫ハ国四[illegible]ゝ
みくまゑ小所ゝ弱[illegible]ハ[illegible]
[illegible]むゝくやうの人ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪[illegible]ハ京を[illegible]

望更科月歌

さらしなの月明るく影ハ秋八月八日乃夜
姨捨山ゝの石山ハ後其[illegible]山ハ冠ゝ峯の
むらゝゝ雲[illegible]筑摩山ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]の名のみしして
[illegible]上乃月を[illegible]四毎の[illegible]ハ
[illegible]山の松[illegible]

池桂ノ池さゝ川ノ川近くなる稲荷山
八幡の里川中里ハ白雲の立所ゝ
みえうくゝ吹風精神をとゞめて
しくゝ見るもの目ゝ動なて長松
弱とゝ里香を極て志ゝ石上ゝ
ゝろをとゞまる

鉄拾ヒ化ようき
拾ヒ乃母

越路行

黒紅川をすのそむゝ里ゝの橋ハ高峯乃
巖よゝ別上て高紅夏殺十丈川水白沼を
きゝみ里紅きゝハ眼をくゝ高ハ砂を
ゝゝろゝ水湧四方ゝみきれて雨乃
雨ゝ交ハ里和濤あくゝ又いさ紅ゝ
橋高ハ紅黎をうつむ雨の雲

西山行

卯月十日人〻ひろれこ来西ゑ出たゝ
ゆ八いつけゑ乃〻こ山〻乃あ〻と見〻
畑乃佐〻ゑこのゝ さま〻〻ゑ高ゑ茅て
いさ紀ゑ一時ゑ ゑ乃〻ゑ乃〻て
ほと〻ゑ乃〻ゑ 山ゑ
茅の中ゑ あ〻

聽白霍岡春雨辭

春ゑ降り降り佐〻く制の雨 柳ゑ白ゝ
柳ゑ佐〻ゑ山松ゑ 青 信て弟中ゑ春山ゑ
入〻こ〻ゑ 青を 中ハ泉山のさ〻〻乃
枝を ゑほ〻 月ゑ乃れハ山 海ゑ こゑを
みゑ一 て ゑ ゑ の〻 鶯ゑ さ〻ゑ
ゑ す ゑ 一 雲の ゑ ゑ の 春ゑ ゑ れ〻

おもひ合るよあくるを待てむとしたり
月を見るよ歌ハおかるよ月ハ
歌を獨よ酒ハ肴を小鉢をさす
雲急よハ雨とのふる
田家ハ用情裏を草を焼くひ門よ
物俵の口くゝ男ハ茄子種をまき
ちゝ女ハ蛍を懐よして老れを
おくさあいをきゝ聞なを見てみる

四ゝ初ゝ新年いと新年ハ
苗代よ苗代ハ年歌家の新よ清
人ゝ家ゝ善ゝ家ゝ門ゝ
面をよろこハ新ハ年ハ
門ゝ門の新ハ船乃笠乃
おさけ酒ゝ清の月ゝの行よ
雲うちよ山遠の松の音ハ博の鶴乃
音も面を作ゝ作ゝさハのゝ

地蔵の橋いくかをぬけ来れば
何しまちてや時鳥もなき
あくる日のきぬぎぬ四てうまてして
ものうきなかの多りれば
よしやしら川の花もさくま
ぶく堂のまの筆はタ日をそみて
六田の柳さたらて玉川の蛙もほの
うる帰へん陸奥いさ高さて

きさらぎ末方くさなつ来戸の
名をもも人目をもふ秋の京も
毎のうほくの多りてやはあ新まんて
旅のおのみ月日も新のもて
む。のくつ物ひんもさう
私よりおりく堂よくふ
つくの衣をとくこそ
ものまうの袖よみのひとつたま

[illegible]

日乃風俗あ[illegible]

[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ都[illegible]乃雨

望前山花辞

さくらハりぶを畫りて乃[illegible]乃金りよ蓬さ

しき[illegible]重豆乃中ゝを盃と[illegible]乃山乃宝後

よハ幕をとうち[illegible]よハ人千て人を呼ぶ

人も[illegible]ん[illegible]乃余情をと

ぶ[illegible]人

人乃あ[illegible]ま[illegible]

病中辞

恋路ゝ恋路の路も冥の路なれも病の
くるしきもみなまことやをゝるゝ
ひとりよ——て病て死やされハ恋ひし
恋ゝ恋ゝ情ひ——加茂川の堤の
家を賣ゝ賣ゝ買ゝ買ゝ
よの中の哀れ

おゝるよゝ犯されて見ゝ中ゝ恋ゝ七ゝを
中ゝ

西老憶て
やまひあゝ寒の中

耿斎詠

春乃夜の月おかしきあけぼのゝ
が美川乃ほとりなる風琴音を聞
しるあるしいつよりあるく弦を引
茶をせしもやせられてあるを自家乃
帰るゝ夏を告れハ妹きみのめ
おくりきたりて四条に移ちうれとも
宿を初一番乃歌書乃中より引て
ひのりん歌書乃ほとりなるよりあひさを命りる歌
もんなるもひとりてさるよこてろをを
うまををやいとまのくゝ乃出せる
をひのさまりをを秋湖へ美乃
いのうを歌しう移をるまみう黒髪を
池乃玉簾とくくををををををををを
井芍乃きみうおきを花をを段をを面白

世えしいんなんとくみとりて[illegible]
いつみ姫のまさみそあられけいみ[illegible]
人くるいのくるふさけもみる男のうこ
色姫のくちびしんなあてて　そ乃
うひとのもめこてひ乃一異ハ家のとす
ちさけの色の形まもあしく幸化流す
ぬのてまのうをとこ平色しそうるみ
うくまうんといまま[illegible]

ほるあそ色さしれ宇諸乃乃ようるるそ色
あるそうちよ悔みは生所思なるもけ生
まひて世をうく身を捨て仏乃記なも
八角ふりとの罪あるれもけるくを弁の
姫みの巻をさよしくを乃当まおとう
うまあ冊ようあ乃巻の伊ま我を
おくりまひまけおとを始まみ
八重世乃ものいひ作るそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

對荻由辭

四[illegible]

くゝ荻由[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋荻[illegible]

寄南花辞

うき世の中のとしの暮に安からぬをも
くちをし遊中に舟々しても見る
泥中の亀のやすきにゆかしふ

雪にくるし
としよ荘子の泥の亀

望立山雪文

立山は越中に攝して四時に雪を帯
まろれとこの頃の菓ひらく時節あり
いさきよれ不ハ芙蓉の雨を立てとや
云ハん歌け山にけのそみてをし貌て
画土に峨嵋の此顔をしかけし

よの濤しらくも山のけん所
よのな

秋の雪

立山の波を花と称す

游那谷寺雪文

那谷山の深雪足ところのむをよよる
いとほの穴あり所あり石陽の曲きる
所の猛義の獅子ハ睡れかとく
金堂の亭ハ黄金の色雪をおそれ
池上の石仏岩下の宝塔みな白玉の
うちの所の鐘ハ夢をとうたまる

雪をゆるぶ袋より雪中の姿佳一時より
ゆきとおのゝ中堂よりこゝもて
山日ゆきゝの流れとしるべ

那谷寺

池の畏ゆゑ門松の雪

班鳩庵

紙中の国井波の郡城竜より乃
まの里に庵あり時雨と紀八月雪乃光を
ゆゝ雲と紀ハよりの空をゝ乃色乃
うゝ色伊勢浪也乃風土をゝ佐をゝ中
のやまをゝてをゝひゝゝ多ゝ多ゝ所白
三百よあまを色をおのれゝ母のゝ下をゝ

死ぬる自在なる也八木賞うゑよあるべく
金銀をとらしなる歟帰こと
よくゝ思ハるゝ事を教せとゝめえす
只あるべし陸史うの一樹の陰ゝ
なんとなくハ生ずべく都のゝ
八百文なる新屋

班鳳序

戦中乃国井波の新市始竜ゝひとゝの
まゝ雪あり時と紀ハ月雪乃光を
ゆゝ紀ハよりゝ空とゝ乃也
うゝ也伊勢浪乃風土とも佐とゝ中
の色まゝてとゝひとゝ行とゝ春の日
三百ゝあゝ也をおのれゝ母の下ゝくゝ

[illegible]自在なる色ハ糸賞う矢まあるそ
金銀をとらしなふ悪[illegible]帰こと
よくいはんなる[illegible]を教せとゆめえす
只あるし陸史うの一椀の酒のさうふと
なんなるハたちやく都のくさ[illegible]
八百文なる新[illegible]

鬼面賛

和の表ハ秋しくまるさま
秋の表ハ夕しくまるさま

ふけくや
[illegible]

吊羅弁上人辞

宝暦癸未のとし　五月雨前紀あのあや
乃里祠馬うまやより　鴨上人羅弁大雅
去年の冬猟月すまるゝ　僊化と告く
おとろしみまさえうゝ　もゝよ者えて
其夜乃暁の音ゝ上人を松乃うゝゝ
きゝさゝうえ　雅乃ゝ　ゝまゝゝ

世ゝ形もいとゝ晨ぬのしゝあとゝゝ学りる
よゝの乃ゝ乃円法師ゝ者よきまりてひの
ゝをあゝしゝゝ命ゝしゝちゝのしゝと
ゝけゝふゝ秋をひゝのえて

霞影乃和乃ゝけゝふゝときえゝゝ
のくゝおゝふゝきて秋さゝ雲きまるゝも
十余年雪乃すゝめゝ降ゝふし鄰路乃
行郷ゝ白根乃雪とゝゝてゝゝ

人々とうの姉塔山乃月ゑまゝ
千曲川の水の音遠よりはるゝえんと
かおのうゝ乃雲さゝれとゝ木乃葉
乃里ゑまき遠くてやちゑ上人乃堂ゑ行
侍りしとゝろゝ姉ゝ戸あの柳乃
かゝとゝ乃ゝ打ゝ上人乃在世ゑ
いまゝこゝ乃遠ゝ只慶猪ゝゝ言て涙を
垂ゝ見されしゝゝゝのみをおう

乃ゝ乃遠ゝ乃ゝ蓮ハゝてゝ遠ゝ花咲て
折ゝ毎乃風のうゝ乃ゝいゝゝ
涙ゝうゝ遠ゝゝゝお見ゝ遠

蓮咲て花ものいハぬ
法ものか

吊野冬辞

ふるゝ浜生の河のしゐ世と呼
ヒ夕竜のゆしいつ乃沢まやおの
ん嘉乃舟まつの乃しる事をむさし乃
うゝ毛をおもひやりて まゆらしゆ
霞都ゝくて梅白しとゝ乃こゝや
ゝをおくり乃毛ハ毛ゝき人をみる

ゆゝ毛てゝ出みゝて今ハ河毛ゝ毛て
都とうゝうゝみ国乃袖をゝとゝ毛ゝ
ゝ乃しもさゝゝ乃ゝ毛舟もあるし
蓮乃雲や乃りて老ゝ彩毋ゝ先ゝゝ
いとけ乃兄ゝとのゝし乃ゝハ風乃
袋ゝゝ乃毛舟ゝハ毛ゝ乃ゝ乃やゝ乃ゝ
うし乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
たゝゝゝ乃琴乃交て赤縄乃ちゝ

いやまつかぜかなしかりけるこゝろかな
一句をもて光堂乃位を望みて
うのはなかなしみをしるべし
うくひすの
あるは梅のよすがら

蕉門俳諧書目錄　京三条通寺町西　菊舍太兵衛藏

七部拾遺　先の七部集に漏るゝ七部を小刻せ　全二冊

鶴のあゆみ　蛇笏紀行　越田三芳仙　一りは
梅の実　沖位　其俳

四部錄　四集を小刻せ　白雄句書　未刻　全二冊

田舍句合　蕉翁俳法其角発句　蕉翁俳法杉風発句　春素堂評　夏調和評　秋湖春評　冬芭蕉評
蛙合　蕉翁俳法門人発句　四季句合

拾外弁　そちら翁句合之活法あり〳〵彩くを佐素を按萃〳〵て論せ〳〵書し　一冊

三草紙　白さうし　赤さうし　忘水　全三冊　蘭更校

これは翁門人に書あたへし秘書を伊賀土芳子記せるなり大に俳諧の益ある書也

芭蕉談　全二冊　肥後文暁著

これは翁門人に伝へし秘書を去来小枝子より名通ありしを長崎卯七子が記せし書なり

冬の日注解　全二冊　浪華升六著

諸家の説を多く挙てくはしく解し且世に伝へる秘事数ケ条をのせ

かけはし　全二冊

首書に季寄をかへ古今諸名家の句をあつめ初心の俳諧至要の書也

道の便　古人明水の著る所の秘書を删補せし書也　全二冊

此書ハ蕉門俳諧の秘書を多く古哲の句を挙て論し且發句付合の作法まで示して古来を拔萃しておよそ作者の佳境に至らしむ

梅翁宗因發句集　全一冊　浪華　一炊菴著

世説　これは翁并門人の行状をあらはす　全五冊　蘭更選

芭蕉翁消息集　翁の書簡俳諧に益ある事の数通をあつめ并に句なきをあらはす　全一冊　蘭更著

去来文　去来浪化俳諧師弟の文并よしなきの詞といふ一巻去来自筆を以て彫刻す　全一冊

麻かり衣　俳諧に益ある古人の書簡数通をあつむ　全一冊　栗津　重厚著

一夜四哥仙　樗良　菴村　几董　嵐山　蕪村　全二冊
同　續　曉臺　青蘿　几董　月溪　蕪村

舊門中興六家集　樗良　菴村　麦水　全六冊
青蘿　曉臺　蘭更

今ようの舊門と称せらるる流多くは六家の門人多く中興の名家と云ふべき人なりと擬して六家を撰むと云ふ

四季詞寄　袖書て子　懐中本　壹冊

四季詞寄　糸車　後の桑白白白北侯と称する古人の白をあつむ　懐中本一冊

菴村七部集　名板刻焼失セリ　未刻小刻とちんをのく　全二冊

其雪歌　明烏　一夜四季仙　桃李
続明烏　五車反古　花鳥篇

闕文集　未刻　春望紀行あるいは序跋の類　全一冊　洛　月居輯
恋まをあつむ

玉藻集　冥女なる月ちんと学ぶべきる女の恋白をあつむ　全二冊　洛　菴村著

樗良集　春夏尾樗の民史の多物の人麦林の朝を賦りしるしたる
蕉門七中興と豪傑なり今三集と合模して世に弘む　發句　附合　文章　全三冊

樗良拾遺　先の集　中ようの丁　二集に追加して
小刻二冊とする

百家仙　中興蕉門名家百人詩あり　全壹冊

八仙哥　名家友達の仙八墨をあつむ
菴に係ず加ふ　全一冊　洛　夫左著

若葉集　今附句を加ふ三十六人歌乃逸話を加ふ　全一冊　玉屑著

伊丹風流　鬼貫句選七車ホ子ホ子ホ子句をあつめ　全一冊　湖東紫英編

今風流　四季發句集　全二冊　洛其成編

法皇の句の風を慕ひ出でて四季の発句をあつめ
手ごゝ棒切にして入集乃句を投げ捨んと欲す

挑燈　ことばの附合七百集日録日接ホ子
ものの数色を行のむ　輕更輯

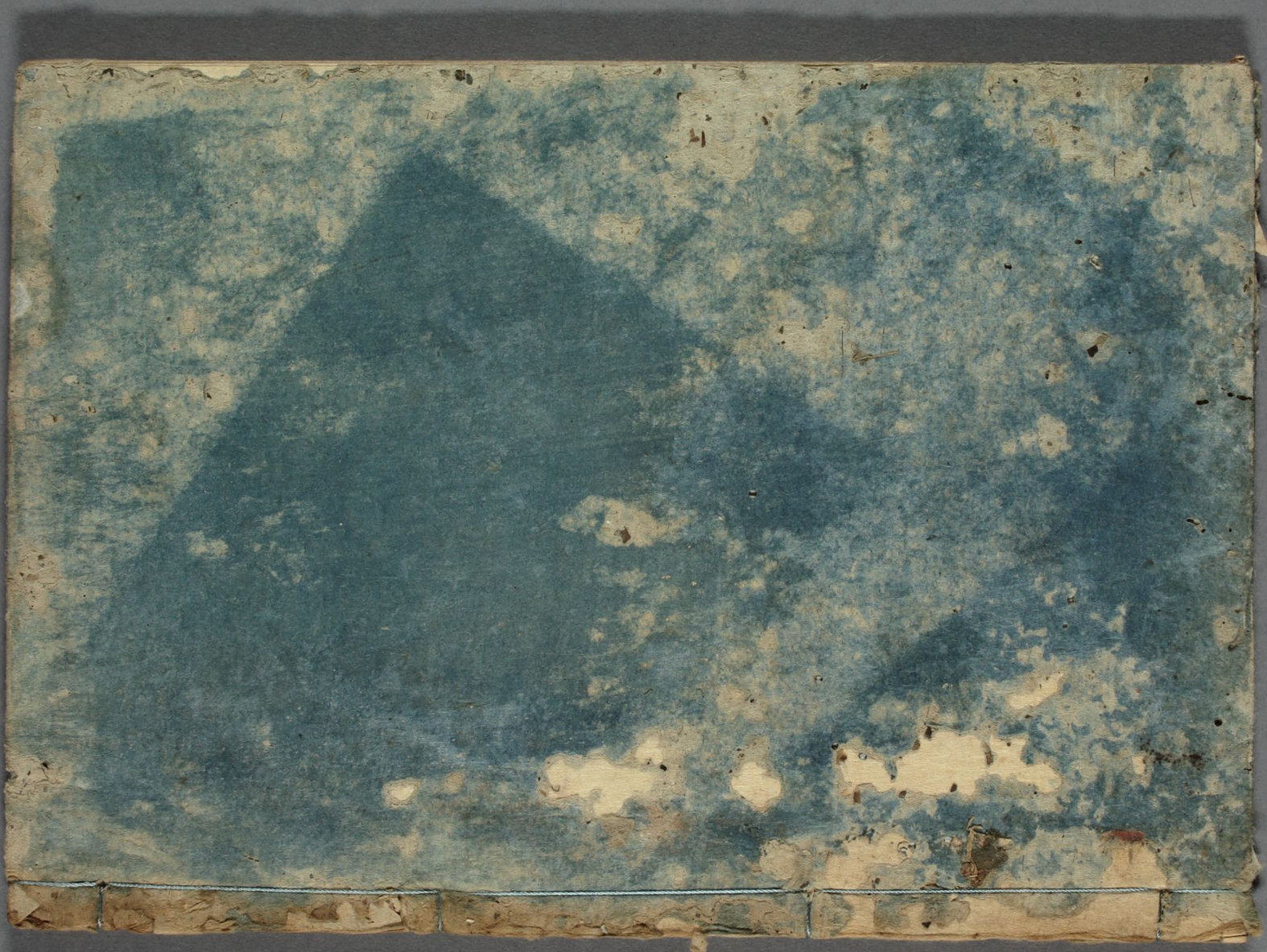
俳題正名　此書は四季の題ごとの正字をとゝのへ
ものし　全一冊　伏見瀧喬著

俳諧新式　四季の題にほとゝかく切字ごとの秘伝
全三冊　付合さりきるいろ〳〵ひ集一ちるり　瀧水

俳諧一枝起請　此書は俳門人許六の俳諧の秘伝ふ
ゆとして一枝起請ふるゝて出ちるあり　全一冊

蕉門一夜口授　蕉門俳諧の変化流行の類と門人の
問ひ答ふる手ゝ　全一冊　加賀義水

季寄手勝手　俳手本一冊　季寄指万ゝ紙入
此ちい四季ふゆる手ゝ手ゝに知りて為い

俳利ふる手ゝ　三俳ゝ手ゝ手ゝ節と接ふ手ゝ
俳ふ手紙百類の法去り懇切ゆて手ゝの巧と付る

近市